

# スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2014年1月29日発行 第34号

## 居場所づくり勉強会 第26弾！ ～「相談支援事業」って何？セルフプランって？～

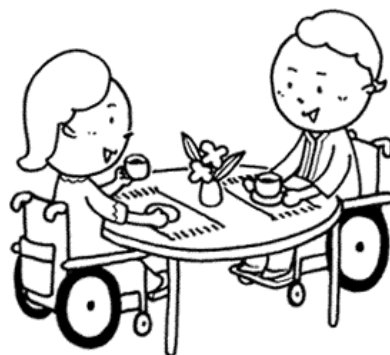
相談支援事業ってもう始まっている？ わたしたちにも関係あること…？

自分の介助のこと、自分で考えたいんやけどな～。セルフプランって可能なの？

実は・・・平成24年の法改正により、障害福祉サービスを利用するすべての方に「サービス等利用計画」の作成が義務付けられることとなりました。京都市では、平成25年度から、障害福祉サービスの新規申請や更新時期に合わせて段階的に対象となる方を拡大し、平成27年度3月を目途に、サービス等利用計画が作成されるよう、順次対象者を拡大していくことを目指しています。

さて、行政はこんなふうに言っているけど、さあどうする？ どう考える？  
一緒に勉強しませんか？

日 時：2月28日(金)14:00-16:00  
場 所：日本自立生活センター事務所  
参加費：無料  
担 当：林・小泉



### こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふう動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。ぜひ参加してみてください♪講師は石田久美さんです。

★ヨガ：全身をうごかすヨガ

日 時：2月4日(火)18:15-19:30 (OPEN18:00)

場 所：油小路事務所2F

持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費：無料

\*このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。



日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：横川

ご意見・企画のアイデアなど大歓迎！バックナンバーはホームページ↓で読むことができます。

TEL:075-682-7950 E-mail:[jcil-kyoto@jcil.jp](mailto:jcil-kyoto@jcil.jp) URL:<http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

# 第1回 共に安心して暮らせる京都デザインフォーラム

2014年2月8日(土) 13:00-16:30 (開場12:30)

会場：西陣織会館3階ホール 京都市上京区堀川通今出川南入

参加費：500円

第1部 基調講演：～『障害者権利条約』を京都の文化に～

長瀬 修 さん

日本障害フォーラム(JDF)国際委員、障害者権利条約の仮訳を作成。

『障害者の権利条約と日本』等の著書がある。立命館大学客員教授。

第2部 「条例づくりで見てきたこと、これからの京都」

■2013年12月、国連障害者権利条約の批准が国会で承認されました。障害者権利条約は、障害のない人との平等な権利保障を謳い、インクルージョン(分け隔てられないこと)、多様性の尊重、自立、機会の均等などが一般原則として規定されています。

■また、京都府では、障害のある人が差別をされず、住み慣れた地域で暮らせるように、差別をなくすための条例づくりを進めています。条例づくりのなかでわかったことは、たくさんの差別が現実には起きているということ、そしてそれらの多くが少しの発想の転換や話し合いで解決できる可能性があるということでした。

■これからつくられる京都府の「障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らせる京都づくり条例(仮称)」では、何が差別にあたるかのものさしをしめし、差別がおきないように未然に防止をするとともに、差別がおきたときに話し合っ解決するしくみをつくります。

■多くの方が、住み慣れた街で、信頼できる友だちや近所の人に囲まれて暮らしたいと願っています。そんな京都を一緒に構想しませんか??

※主催 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会※

## みんなの忘年会



2013.12.26

食べて、飲んで、笑って、踊って、  
ステキな時間になりました♪

# 総合支援法に変わったよ！ えっ、ほんま？ Part+30

自立生活満喫中のリツコさん  
でもあんまり難しい話は苦手…



前回、批准が決定って言うてたね。  
国連に正式に報告にいったんやね。

そうなんや。いよいよ気を引き締めなあかんね。

ほお〜。そういうことなんか。いろいろ悔しい思  
いをしてきたけど、ようやく社会全体で差別をな  
くしていく方向がしっかり決まってきたんやな。

はい！友達さそって、いってみるね。

「障害程度区分」って、福祉サービス使うとき  
に、いろいろ聞き取り調査されたけど、あのと  
きのやつやね。

うん。あれが変更になるんや。  
なんでなん？

ふむ。なんかややこしいけど、見守ってくれる  
人がまわりになかったり、慣れてない環境や  
と、パニックになって、できなくなる場合もあ  
るってことも評価されるわけだね。

なるほどー。家族や施設の中では何が必要かわ  
からないことも多いからね。大切な視点やね。

障害者制度改革について  
勉強中のタクオさん



小難しいこともやさしく(?) 解説

そういえば、先日、日本政府の国連大使が、国  
連に障害者権利条約の批准書を提出したよ。

うん。12月に国会で承認されて、この前、ニューヨー  
クの国連にいったわけだ。実際に国内で権利条約の効  
力が生じるのは2月19日からだよ。

うん。権利条約が効力をもつことで、まず今後権利条約  
に反する法律は制定できないことになるよ。また、日本  
はこれから定期的に国連の障害者権利委員会に国内で  
の実施状況を報告しないとイケない。差別がまだまだ残  
ってたりすると、勧告を受けることになる。

うん。権利条約って、憲法みたいなもんだからね。憲法を学  
校で習うように、できたら権利条約についても、多くの人が  
学んでほしい。特に当事者や障害者支援に関わる人はね。  
2月8日には学習会もあるからぜひ行ってみてね。

それから、話は変わるけど、今度の4月から「障害程度区  
分」がちょっと変更になって、「障害支援区分」になるよ。

うん。聞き取り調査して、障害の程度を判定していたやつ。  
区分4とか5とか、受給者証にも書かれてるよね。

知的障害の人とか、精神障害の人とかが軽く判定される傾向に  
あったからなんだ。だから、行動障害に関連する項目を追加し  
たり、「見守り」や「声かけ」の支援を評価できるようにしたり、  
単身の状態や、慣れてない場所、はじめていく場所で「でき  
ない」ことがある場合も、評価できるようにしたんだ。

そうそう。普段できてるように見えても、いろんな支援が背景  
にあるかもしれない。そういうところの支援をちゃんと見える  
ようにしたわけ。単身で一人暮らしするとどういった支援が必要  
か、という視点も入ったわけだ。

# 障害者運動のバトンを次世代へどうつなぐか？

## ★ シンポジスト ★

尾上 浩二 (DPI日本会議事務局長)

熊谷 晋一郎 (東京大学先端科学技術研究センター特任講師)

大野 更紗 (作家)

小泉 浩子 (日本自立生活センター自立支援事業所管理者)



障害者と社会のこれからを考える

◆日時: 2014年3月2日(日)(10時開場) 10:30～16:30

◆場所: キャンパスプラザ京都 4F第2講義室(JR「京都駅」烏丸中央口から西へ徒歩3分)

[http://www.consortium.or.jp/contents\\_detail.php?co=cat&frmId=585&frmCd=14-3-0-0-0](http://www.consortium.or.jp/contents_detail.php?co=cat&frmId=585&frmCd=14-3-0-0-0)

◆参加費(資料代): 500円 (申込不要)

## ★ シンポジウム趣旨 ★

- 2013年は、「差別解消法」が制定され、また「障害者権利条約」が批准された年でした。かつては、多くの障害者は施設に入れられ、街に出ることも否定され、この社会で生きることをほとんど認められていませんでしたが、先人たちの願いや行動が少しずつこの社会を変革し、障害者の人として生きる権利の確立がうたわれ、また差別のない社会が目指されるようになってきました。
- しかし今、多くの障害者のおかれた現状をみると、実際に障害者の権利の確立、差別のない社会の実現はどれほど進んでいるのでしょうか。私たち障害者は、障害のない人と、ともに同じ学校で学び、ともに地域の同じような家やアパートで暮らし、ともに同じ職場で働き、ともに同じレストランで食事をとることが、どれほどできるようになっているのでしょうか。まだまだ共生社会の実現は遠い道りであるというのが現状です。
- そして近年、時代と社会を切り開いてきた障害者運動の先人たちが、次々と亡くなりました。にもかかわらず、先人たちの理念・思想を受け継ぐべき次世代の人々の多くは自分達の進むべき道を見出せずにいます。一方で、障害・障害者の範囲や概念が広がり、また、ゆらぎつつあります。これまで「障害者」と呼ばれなかった難病患者や発達障害の人々も、「障害者」の枠組みに入りつつあり、障害のある人となない人の境目がわかりにくくなってきている部分もあります。
- 今回のシンポジウムでは、時代の節目である現時点から、過去の障害者運動の成果を振り返るとともに、これからの障害者の生き様や社会のあり方について考えるために、「障害者運動のバトンを次世代へどうつなぐか」、あるいは「次世代の人々はそのバトンをどう受け継ぎ、自分たちの時代・社会を切り開いていくか」といったことをテーマにして、現在多方面で活躍されている4名の当事者の方々をまねき、大いに議論していきたいと考えています。

## ★ 主催・後援等 ★

主催: 「国際障害者年」連続シンポジウム運営・実行委員会

協力: 日本自立生活センター、自立支援事業所、Work's 共同作業所、車いすと仲間の会

後援・助成: 京都府、京都市人権文化推進課、京都新聞社会福祉事業団、京都市社会福祉協議会、京都府社会福祉協議会 (申請中含む)

## ★ 手話通訳等 ★

要約筆記あります。手話通訳ご希望の方は、2月20日(木)までに下記の問い合わせ先までご連絡ください。